畜産みやぎ

題字
宮城県知事　村　井　嘉　浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 社団法人 宮城県畜産協会 電話　022－298－8473
編集発行人
木　村　春　雄
印刷所
㈱東北プリント

平成20年度宮城県総合畜産共進会（平成20年9月20日）

もくじ
CONTENTS

「茂洋」号産子の子牛市場デビューについて……2－3

パイプハウス牛舎について……4－5

肉用子牛資質向上緊急支援事業について……6

肥育牛経営緊急支援事業について……7

土砂崩れを乗り越え牛が避難
―岩手・宮城内陸地震―……8

平成20年度宮城県総合畜産共進会盛会裡に終了……8

“牛乳・乳製品フェア2008”キレイと元気を応援！
ミルキーマーケット開催について……9

農林水産祭参加第48回仙台牛枝肉共進会の開催について…9

〈畜試便り〉第15回日本胚移植研究会宮城県大会が開催される…10

〈衛生便り〉鶏の小規模飼養農家で発生したマレック病…11

〈実践大学校生の抱負〉私の将来について……11

〈New face〉……12

みやぎの畜産情報発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

ＵＲＬ　http://miyagi.lin.go.jp
Ｅメール　info@mygchiku.or.jp

PRINTED WITH SOY INK
R70
古紙パルプ配合率70%の再生紙と、
植物性大豆油インキを使用しています。

「茂洋」号産子の子牛市場デビューについて

宮城県畜産課

１「茂洋」号産子の初上場について

平成19年に宮城県の基幹種雄牛として承認された種雄牛「茂洋」(しげひろ）号の産子が、８月18日のみやぎ総合家畜市場における子牛市場に初めて上場されました。宮城県の村井嘉浩知事をはじめ、多くの県議会議員も駆けつけ、「茂洋」への期待の大きさがうかがわれました。また、当日は「岩手・宮城内陸地震」で被害を受けた栗原市、大崎市からの上場日にあたっており、栗原市花山地区から県岩出山牧場に避難していた子牛も３頭上場され、村井知事は、「茂洋」号産子のＰＲと震災に遭われた生産者への激励をいたしました。

村井知事は、「茂洋号について、優良牛の生産、生産者の経営安定及び仙台牛の銘柄推進に大きく寄与するものと期待する」、「地震被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げ、肉用牛の主産地として、震災に負けず、肉用牛生産に頑張っていただきたい」と挨拶し、「茂洋」産子のセリを見届けた後、市場内を視察し、生産者との交流を深めました。

２「茂洋」号産子のセリ結果について

今回上場された「茂洋」号産子は、去勢３頭、雌２頭の合計５頭でした。去勢はいずれも８ヶ月齢以内での出荷で、体重が250kgから340kg、雌も９か月齢以内、260kg程度で出荷されており、増体の良さが見られました。販売価格は、去勢平均686.3千円、雌平均613.5千円と高値で取引され、特に去勢の最高価格は856千円と、当日の市場平均価格を466千円以上上回る結果でした。

３「茂洋」号について

「茂洋」の父牛は宮城県を代表する名牛「茂勝」であり、母牛「こざさ」は第７糸桜の息牛である「糸晴波」、「糸花」の交配により生産されました。本牛は肉質に優れた「茂重波」の血液の濃い父牛と、増体に優れた「第７糸桜」の血液の濃い母牛との異系統交配により造成された種雄牛です。

茂洋は、和牛産肉能力直接検定において、1日平均増体重が1.56kg、365日齢補正体重が482.3kgの成績であり、体深、中躯幅および尻が体型的な美点として評価されています。

また、「茂洋」は、農林水産省の平成19年度肉用牛広域後代検定において、「脂肪交雑」及び「ロース芯面積」で全国トップに輝いております。「茂洋」の検定材料牛27頭の広域後代検定成績は、BMS№7.63、ロース芯面積62.8㎠と全国第１位で、枝肉重量の443kgも全国平均と比較し、20kg以上優れております。

本牛の交配については、「茂勝」、「茂重波」の娘牛との交配は近交係数が高くなるので、注意が必要です。「茂糸波」、「茂糸桜」、「第２波茂」、「奥茂」、「奥北茂」、「宮福茂」等本県の基幹種雄牛の娘牛や、「北国７の８」、「紋次郎」、「菊谷」等の娘牛、鹿児島や宮崎からの導入牛との交配には有効と考えられます。

（生産振興班　猪股永治）

みやぎ総合家畜市場開催日程《平成20年10月～ 12月》

月	子牛市場				成牛市場					肥育牛	２才妊娠牛
10月	14(火)	15(水)	16(木)		2(木)	9(木)	17(金)	23(木)	30(木)		
11月	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	6(木)	14(金)	20(木)	27(木)		7(金)	5(水)
12月	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	4(木)	11(木)	19(金)	25(木)			18(日)

祝 日本一「茂洋」号産

祝 平成19年度現場後代検定
日本一

茂洋号産子

パイプハウス牛舎について

社団法人　宮城県畜産協会

独立行政法人　農畜産業振興機構の指定助成事業である肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業の一メニューである「増頭に資する器具機材等の整備事業」を活用したパイプハウス牛舎の事例についてご紹介します。本事業では、増頭に係る簡易な畜舎及び器具機材が補助率１／２以内で導入する事が出来ます。

肉用牛繁殖経営において所得を向上させるには、販売子牛の頭数を増やすかセリにおいて販売価格を高めるほか、飼料費等をはじめとした経費の削減に取り組む事が重要であります。また、繁殖雌牛を増頭する場合には、畜舎建設の経費をいかに削減するかで、資金繰りが大きく左右されます。一方、建物のコストを削減する事で管理に係る器具機材への投資を充実させ、作業時間短縮及び的確な繁殖管理等が実現できるメリットがあります。

また、本事業で建築可能な簡易な牛舎は下記の要件を満たすものとなります。

採択基準

⑴　簡易施設（牛舎）については、１施設の面積は500㎡（木造）以下で、繁殖雌牛１頭当たり平均面積は13㎡以下、㎡当たり事業費２万円以下であること。

⑵　費用対効果分析を行うものについては、投資効率が１を上回っていること。

⑶　コスト分析を行うものについては、簡易施設（牛舎）の整備（固定資産税の対象にならないもの）については㎡当たり事業費が２万円以下であること、施設の改造に必要な資材の支給については㎡当たり資材費が１万円以下であること。

⑷　固定資産税の課税対象とならないものであること。

⑸　農業協同組合が取得し、組合員へリースすること。

⑹　簡易牛舎建設に係る骨材及び被覆材のみ補助対象。土間や建築に係る人件費は補助対象外。

※注．簡易牛舎においては、園芸用ビニールハウスとは違い、用途の違いだけで固定資産税の課税対象となる自治体もありますので、ご注意下さい。また、ハウス牛舎の床面にコンクリートを用いた施行や基礎工事は課税対象になる事例が多々見られますので、ご注意下さい。

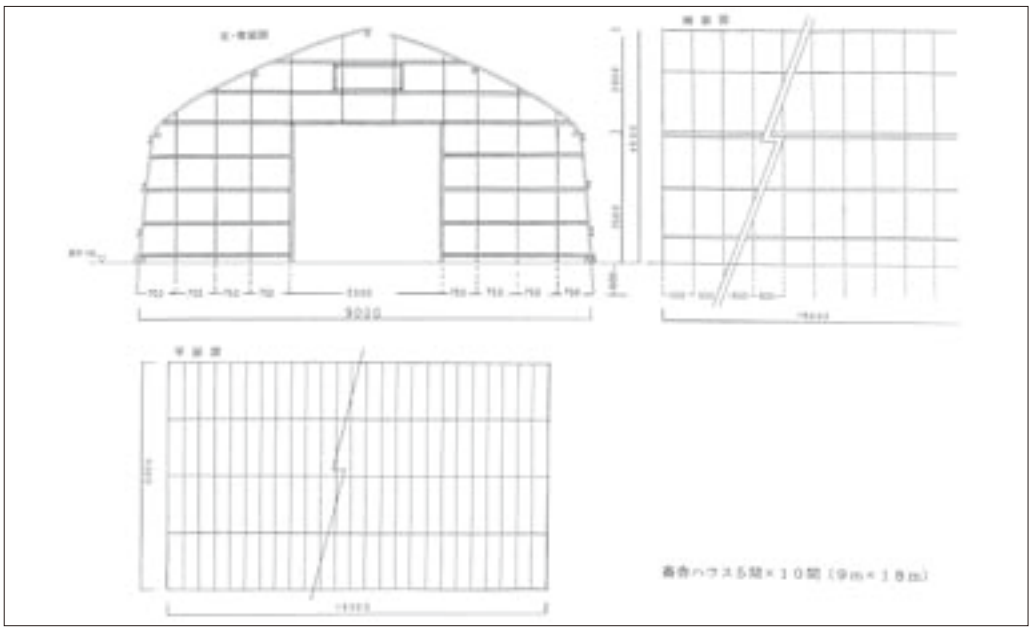
○県内の設置の事例

下記写真は簡易牛舎の外観。骨組みと被覆材の費用は平成19年度で㎡単価７千円前後になります。間口と長さで調製可能なため、増頭計画に合わせた柔軟な施行が可能です。増頭する雌牛１頭あたり13㎡未満の採択要件がありますので、９ｍ×18ｍの簡易牛舎になります。

左下写真は簡易牛舎の内部になります。フリーストールタイプの内部構造になっており、本県では、加美や栗原のような積雪の多い地域においても、内部の補強を行えば対応できる構造になっています。

右下写真は連動スタンチョンとウォーターカップが整備された簡易牛舎内部になります。別メニューとして増頭に必要な器具機材の整備も併せて可能であり、補助率は１／２以内になります。左下の写真にもあるとおり送風機の整備も可能ですので、生産性の向上も期待できると思われます。

○実際の立体図



これらの簡易牛舎は９ｍ×18ｍのもので、標準的な金額として聞きますと、部材費が120万円、施工費が50万円、基礎部分が50万円と内部の設備で300万以上にはなってしまいますが、木造牛舎の半額以下で建築可能と考えられます。

また、実際に繁殖雌牛を増頭するには多額の導入経費等がかかりますが、宮城県においては、繁殖雌牛が15頭の飼養規模を越えている方でしたら､「中核的担い手育成事業」により増頭１頭当たり８万円の奨励金が交付されますので、ぜひご活用下さい。その他にも各種補助事業がありますので、詳しくは下記の連絡先か、子牛市場開催時に設置している畜産相談窓口にご相談下さい。

（経営支援課　金井　TEL：022－298－8473）

肉用子牛資質向上緊急支援事業について

社団法人　宮城県畜産協会

最近の配合飼料価格高騰、配合基金４％ルールの停止、子牛取引価格の低下を受け、追加緊急対策の１つとして肉用子牛資質向上緊急支援事業が施行されました。本事業は、優良種雄牛の交配や優良繁殖雌牛への更新により、子牛の資質向上に取り組む場合、**平成20年度**に限り支援交付金を交付する事業です。

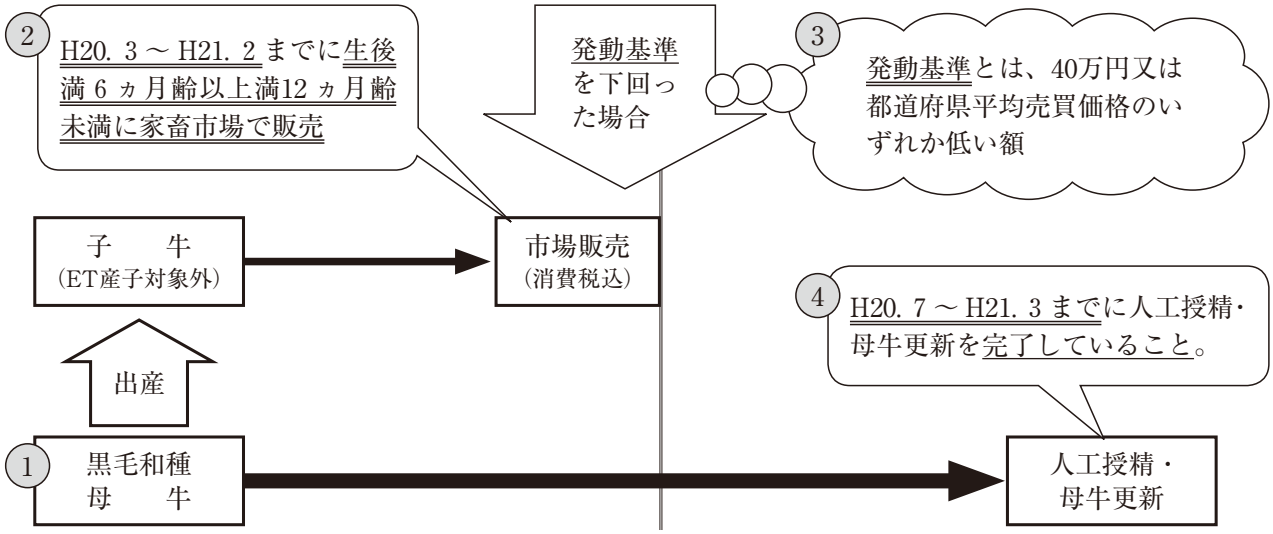
★事業参加するには…

①肉用子牛生産者補給金制度に契約している生産者であること。

②資質向上取組計画と必要書類を提出し要件を満たしている生産者であること。

★事業のしくみは…

下の図の全ての条件にあてはまる①の黒毛和種の母牛を飼養している生産者が対象です



★支援交付金額は…

１頭あたりの子牛の販売価格が発動基準を下回った	人工授精支援交付金額	母牛更新支援交付金
１万円未満下回った	１万円／頭	５万円／頭
１万円以上２万円未満下回った	２万円／頭	
２万以上下回った	３万円／頭	

※支援交付金は１頭につき１回のみ。

※どちらか片方のみ交付。

人工授精支援交付金の交付条件

①人工授精の種雄牛は、定められた基準の種雄牛の中から使用。

②①の人工授精を実施して、雌牛が生まれたら、原則として32 ヵ月齢まで繁殖用として飼養すること。

母牛更新支援交付金の交付条件

①更新用導入雌牛は、満 6 ヵ月齢以上満12 ヵ月齢未満であること。

②母牛又は父牛の育種価又は期待育種価が**上位１／２以内**であること。

③国の導入補助金を受けていないこと。

④32 ヵ月齢まで繁殖用に飼養すること。

支援交付金を受けて生まれた雌牛・更新用繁殖牛は、毎年度、飼養状況報告書を提出する必要があります。

問合せ先は、各農協等　もしくは　社団法人 宮城県畜産協会（TEL 022－298－8474）

肥育牛経営緊急支援事業について

社団法人　宮城県畜産協会

1　事業の目的

肉用牛肥育経営等においては、配合飼料価格安定制度の見直しにより、平成20年７月から４％追加補てんの発動が停止されることになりました。これに伴い生産コストの上昇により収益性の低下が見込まれることから、生産性の向上等による経営の合理化及び体質強化を図っていくことが緊急の課題となっています。

このため、配合飼料使用量の低減による生産性向上等の計画的な取組を行う肉用牛肥育経営に対して緊急的に補助を行い、肉用牛肥育経営の安定に資することを目的としています。

2　事業参加者の要件

⑴　自ら肥育牛の飼養管理を行う者であって、「配合飼料価格安定基金」が定める業務方法書に基づく配合飼料の価格差補てんに係る基本契約及び平成20年度数量契約を締結している者。

⑵　肥育牛の出荷月齢（日齢）の早期化に取り組むこと。

⑶　配合飼料使用量低減のために肥育牛経営強化計画（平成20年度から平成21年度の２ヵ年分）を作成し、平成20年度中にこの計画に基づき取組を行うこと。

3　奨励金の交付（算定対象）となる肥育牛等

⑴　当該経営体が飼養管理（牛トレサ法に基づく牛個体識別台帳に記録された）する肥育牛であること。

⑵　肥育牛の月齢（日齢）は、肉用牛肥育経営体からの出荷日が以下に掲げる月齢（日齢）、又は当該経営体における平成19年度の平均出荷月齢（日齢）よりも短い肥育牛であること。

ただし、肉用牛肥育経営体から出荷された日から起算して30日以内にと畜されなかった肥育牛、生後10ヵ月齢未満及び生後40ヵ月齢を超えてと畜された肥育牛については除くものとする。

また、当該肥育牛を複数の肉用牛肥育経営体が飼養していた場合、最も長く飼養した肉用牛肥育経営体を奨励金の交付対象とする。

（ア）肉専用種　29.0ヵ月齢（882日齢）
（イ）交 雑 種　26.7ヵ月齢（812日齢）
（ウ）乳 用 種　21.2ヵ月齢（645日齢）

4　奨励金の単価

１頭当たり5,000円以内。

5　事業実施対象期間

平成20年７月１日から平成21年３月31日までに出荷された当該肥育牛。

6　事業参加申込の受付期間

平成20年９月16日㈫までです。

7　事業参加の申込に必要な書類

⑴　肥育牛経営緊急支援事業参加申込書
⑵　肥育牛経営強化計画
⑶　配合飼料供給安定制度の**基本契約及び**平成20年度数量契約書の写し
⑷　環境と調和のとれた農業生産活動規範　点検シート（家畜の飼養・生産）

8　問い合わせ先

宮城県畜産協会経営支援課（電話022－298－8475）または最寄りの農協、酪農協、飼料会社へお問い合わせ願います。

土砂崩れを乗り越え、牛が避難
―岩手・宮城内陸地震―
栗原地域事務所畜産振興部

６月14日、大地を大きく揺るがした地震は、山を崩し道路を遮断し、多くの人々の生活の場を奪いました。栗原市花山浅布・中村地区の住民は避難所生活を余儀なくされましたが、避難が必要だったのは、人だけではありませんでした…。地震発生当日から現地での被害状況や必要な支援の把握に努め、畜産農家の現状把握を行ってる中で、避難農家から自宅に残した牛を心配する声も聞こえてきました。すぐに避難畜産農家の聞き取りを実施、数時間で避難農家全員の牛移動の意思と同意を確認し、同時に関係機関と移動先について調整を行い、宮城県農業公社の迅速な計らいもあって、県営岩出山牧場での受入が決定しました。６月18日午前５時、県及び関係機関の担当者総勢17名が栗原合同庁舎に集合し、

３台の家畜運搬車と３台の乗用車で花山の現地に向い、午前６時の１回目の一時帰宅解除時間に合わせて中村・浅布地区に入りました。一番奥の２戸については、完全に通行が遮断されており、山を越えて牛を移動させなければなりませんでしたが、無事６戸25頭の牛を岩出山牧場に搬出し、牧場で合流した牛と合わせて計７戸29頭の牛が避難しました。また、市営深山牧場にも２戸９頭の牛が一時避難しました。

岩出山牧場では避難牛が無事子牛を出産し、明るい話題の提供もありましたが、農家の方々には避難生活の中での今後に不安も多く、７月以降５回の経営相談会を実施してきました。その結果、４戸の農家が経営継続を断念し、残念ながら牛を手放すことになりましたが、３戸の農家は自宅に戻れない状況の中でも経営の継続を希望しており、現在はその再開に向けて話し合いを続けているところです。

今回、短時間で牛を避難させることが出来たのは、各関係機関の迅速な判断と対応があり、スムーズな連絡調整が出来たことが大きな要因であったと考えています。ここに、ご尽力いただきました関係機関の皆様に対しまして、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後のご支援もよろしくお願い申し上げます。　（菅原英俊）

平成20年度宮城県総合畜産共進会盛会裡に終了
社団法人　宮城県畜産協会

本会主催による農林水産祭参加平成20年度宮城県総合畜産共進会は、去る９月２日～４日宮城県食肉流通公社で「肉豚の部」を、９月20日みやぎ総合家畜市場において「乳用牛・肉用牛の部」とそれぞれ開催し盛会裡に終了いたしました。開催にあたり多大なるご協力を賜りました関係者各位には心から御礼申し上げます。

本共進会の目的は、家畜の改良と飼養技術の向上を通じ健全な畜産の振興を期すところにあり、今年度の出品もこれらの点を十分理解され地域の代表にふさわしい優れた出品畜でありました。また、20周年記念イベントとともに消費者との交流を深めるため畜産物等の大即売会、抽選会や機械・器具展示など各種イベントも同時に開催し好評を得ました。なお、各部の名誉賞等受賞者は下記のとおりです。

「乳用牛の部」

・農林水産大臣賞・宮城県知事賞	第７区	（５歳未満） 加美町　高橋　真
・農林水産省生産局長賞	第４区	（20カ月以上） 栗原市　鈴木　義博
・東北農政局長賞	第８区	（５歳以上） 丸森町　長谷部裕行
・団体賞		大崎地区

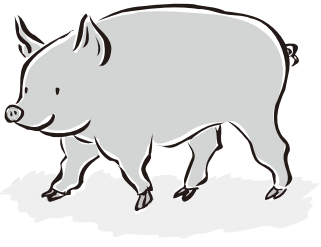
「肉用牛の部」

・農林水産大臣賞・宮城県知事賞	第５区	繁殖雌牛群（経産） 登米和牛育種組合 千葉　啓・大久保清一 千葉　啓・船島一芳
・農林水産省生産局長賞	第１区	若雌の１（生後14カ月以上～17カ月未満） 登米市　千葉　啓
・東北農政局長賞	第４区	父系３頭群（生後14ヵ月以上～20ヵ月未満） 登米和牛育種組合 門脇忠吉・只野徳一・小野寺正人
・団体賞		登米地区

「肉豚の部」

・農林水産大臣賞・宮城県知事賞	第１区	ミヤギノクロス三元交雑種 登米市　㈲ビッグ夢ファーム
・農林水産省生産局長賞	第２区	第１区以外の肉豚 登米市　伊藤範義
・東北農政局長賞	第１区	ミヤギノクロス三元交雑種 栗原市　佐藤好美
・団体賞		登米地区

（経営支援課）



“牛乳・乳製品フェア2008” キレイと元気を応援！ ミルキーマーケット開催について

宮城県牛乳普及協会

近年、牛乳の訴求ターゲットである主婦層は、家族の健康マネージャーとして、栄養バランスのとれた食生活に食事だけではなく「サプリメント」を上手に活用している事が分析されています。主婦層に「美」「若さ」「健康」を感じさせ、また牛乳はサプリメント同様「栄養素密度」の高いバランス食品であることも認識させ、「ミルクって、サプリかも。」をキーメッセージに今年度のイベントを実施いたします。併せて例年に引続き宮城県内の農林水産業及び商工業などの関係団体、並びに地方自治体等の協力を得て県産品の展示即売等を行なう「みやぎまるごとフェスティバル2008」と共同開催し、より効果的なイベントといたします。

イベント内容として、牛の乳搾り体験コーナーを設置し、子供達を対象とした食育ふれあい学校を実施します。牛の誕生から牛乳が出来上がるまでの説明等を行ないながら、酪農についてしっかりと学び、そして牛に実際に触れ合い、乳搾りを体験して、牛乳の必要性・安全性を提唱したいと思います。その他にも、牛乳料理講習会やミルクティスティングスクールでの「おいしく・楽しく食べる」試食コーナー、ショッピングモールでの牛乳・乳製品の販売コーナー、モーモーフワフワ遊具やバルーンアートのキッズコーナーなど、盛りだくさんのイベントとなっておりますので、是非ご来場下さいますよう、ご案内申し上げます。

開催日時　平成20年10月18日㈯、19日㈰
　　午前10時～午後４時迄
開催場所　仙台市　「勾当台公園」

（村山ひろみ）

農林水産祭参加 第48回仙台牛枝肉共進会 の開催について

全農　宮城県本部　畜産部

農林水産祭参加第48回仙台牛枝肉共進会を下記の内容にて開催することとなりましたので、多数ご参観くださるようご案内申し上げます。

１．会期及び場所
⑴　会期　　平成20年11月３日㈪～６日㈭
⑵　場所　　仙台市宮城野区扇町六丁目３番16号
　　仙台中央卸売市場食肉市場

２．出品区分及び条件
⑴　肥育の完成されたもので、おおむね（±３％）次のものとする。

部	品　種	区分	条　　件
第１部	黒毛和種	去勢	枝肉重量390kg～520kg
第２部	黒毛和種	雌	枝肉重量320kg～450kg

※ただし、瑕疵のある枝肉は審査対象外とする。

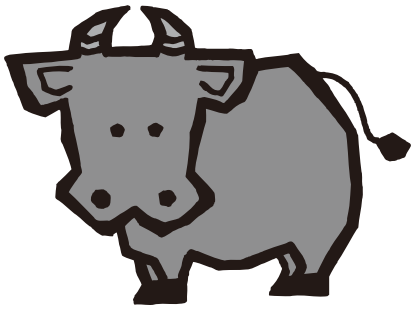
⑵　出品牛は出品者において12ヶ月以上飼養され最長飼養地が県内のものとする。

⑶　出品牛は血統明確なもので、これを証明する書類（子牛登記書等）を有すること。

３．出品頭数及び屠畜･販売日

部	品　種	区分	頭数	屠畜月日	販売月日
第１部	黒毛和種	去勢	150	11月５日	11月６日
第２部	黒毛和種	雌	50	11月４日	11月６日
計			200		

（畑山和夫）



〈畜試便り〉

第15回日本胚移植研究会宮城県大会が開催される

宮城県畜産試験場

去る９月４日、５日に日本胚移植研究会宮城県大会が仙台市イズミティ21を会場に開催されました。日本胚移植研究会とは「家畜の胚移植を中心とした繁殖技術に関する研究の推進と知識の普及向上」を目的とした研究会です。第15回宮城県大会は畜産試験場､石川場長を大会長とし県関係機関を中心に開催運営に当たり、北は北海道、南は沖縄まで、全国から207名が参加しました。

大会１日目は、特別講演およびシンポジウムがあり、特別講演では、仙台市で不妊治療の分野で活躍されている医師、京野廣一先生（京野アートクリニック）より「凍結保存　ヒト配偶子・胚」と題し、ヒトの生殖医療技術の歴史や動物の胚移植との関連技術や最新技術並びに今後の技術研究の方向性等について紹介して頂きました。

また、シンポジウムではテーマを「凍結保存」とし、４題のシンポジウム講演が行われました。独立行政法人　農業生物資源研究所の菊地和弘氏は「ブタ卵の凍結保存の現状と展望について」と題し、ブタの体外成熟卵子を体外受精した後、ガラス化保存した胚から子豚の生産に成功した内容について発表されました。兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センターの冨永敬一郎氏は「超急速ガラス化保存法を用いたウシ胚の超低温保存」と題し、液体窒素内での細菌等からの胚の汚染を防ぐために液体窒素と胚の直接接触を防ぐガラス化保存容器の開発についてそれぞれ講演されました。また、酪農学園大学の堂地修氏は、「牛凍結胚のダイレクト法による移植の受胎率に影響する要因」と題し、現在最も一般的に利用されているエチレングリコールによるダイレクト法において受胎率に影響する要因について発表されました。さらに、全国農業協同組合連合会ＥＴセンターの青柳敬人氏は「ウシ胚のダイレクト凍結融解法による実証事例について」と題して、特許を取得している凍結手法による受胎成績並びに乳牛性判別胚のダイレクト凍結融解胚の移植成績について発表されました。講演後に４名のシンポジストによる総合討論が行われ、現在の胚の凍結保存技術の現状や展望ならびに受胎率向上に向けた凍結保存技術に対し活発な意見交換が行われ、今後の凍結技術に対する試験研究の展望等についても討論が交わされました。

また、その後と２日目にかけては、会員による研究や調査の発表を行う一般講演が行われ、ウシおよびブタの胚移植を中心とした繁殖に関する33題の課題が発表され、活発な質疑、討論を通じて繁殖技術の学術および産業的貢献に向けた研究推進について、参加者の研鑽の場となりました。

（酪農肉牛部　バイオテクノロジー研究チーム　早坂駿哉）

大会風景

シンポジウム風景

〈衛生便り〉

鶏の小規模飼養農家で発生したマレック病

大河原家畜保健衛生所

大河原家保管内には、1,000羽未満の鶏小規模飼養者が200戸以上あり、その飼養品種は烏骨鶏、チャボ等と様々です。本年度６月、当管内の鶏小規模飼養農家において、マレック病が発生しましたので、その概要と小規模飼養農家での衛生管理についてご紹介します。

発生場所は、A市の120羽程度飼養している農場で、自宅周辺の斜面を利用し、周囲をネットで囲んだ平飼い飼養、産直市場等で鶏卵を販売していました。防鳥ネットは使用せず、野鳥との接触が懸念されました。疾病予防対策では、掛かりつけの獣医師の指導により、ニューカッスル病ワクチンを定期的に接種していました。発生鶏は、元気消失した後、死亡した状態で発見され、剖検したところ、肝臓等に乳白色を呈す大型の結節を認め、鶏白血病やマレック病等の腫瘍性疾患が疑われました。病理組織学的検査の結果、内臓型のマレック病と診断されました。

マレック病はヘルペスウイルス科マレック病ウイルスを原因とし、神経症状を主徴とする定型的と、急性致死的経過をとる内臓型とに大別されます。全国では、毎年、各地で散発的に発生が認められますが、宮城県では過去３年間では発生報告はありませんでした。ほとんどの成鶏で不顕性感染しており、発症抑制のためマレック病ワクチン接種が行われています。ワクチン接種は、厳密なプログラムの下、ふ卵場で卵内接種又はふ化時（０日齢）に経口接種されており、通常流通しているヒナはワクチン接種済みですが、初生ヒナでの購入や自家ふ卵で飼養している小規模農家では困難な点が多いと考えられます。

小規模飼養農家については、本病以外にも、野鳥の鳥インフルエンザ感染が確認されたこと等から、その監視体制の強化等が話題になっており、その対応について検討されているところです。小規模飼養農家での衛生対策としては、高病原性鳥インフルエンザに限らず、各種疾病の侵入と発症を予防するために、鶏舎の清掃と消毒を定期的に実施することが大切です。具体的な消毒方法は、インターネット等に情報提供されていますが、掛かりつけの獣医師や近隣の家畜保健衛生所にもご相談ください。また、初生ヒナや育成鶏等を提供している関係団体の方々にも、提供先の農場等に対し、飼養衛生の意識向上の啓蒙に努めていただくことをお願いします。更に、市町村には、小規模飼養農家を日頃から把握していただくとともに、広報等で防疫対策、特に高病原性鳥インフルエンザ発生予防や異常鶏の早期発見について、注意喚起していただき、地域全体での疾病予防対策に御協力をお願いします。

（防疫班　山田　治）

〈実践大学校生の抱負〉

私の将来について

宮城県農業実践大学校畜産コース
２年　肉牛専攻　杉山　　大

現在、私の家（蔵王町）では繁殖牛20頭、肥育牛60頭の一貫経営をしています。この宮城県農業実践大学校を卒業した後は、家畜人工授精師の修業をしながら経営を引き継ぎ、繁殖牛50頭、肥育牛200頭ぐらいまで規模を拡大していきたいと思っています。そのためにもこの農業実践大学校で、技術や経営などを学び、その後に活かしたいと思っています。

しかし今、畜産の現状を見れば原油高騰によるバイオエタノールや、オーストラリア、アメリカの干ばつによる濃厚飼料や乾草の高騰によりやめていく農家も年々、多くなってきました。そこで、私はできるかぎり自給飼料での経営に取り組みたいと思っています。

繁殖部門が一番のメインで、ほぼ自給飼料だけで飼育していきたいと思っています。イタリアンやチモシー、オーチャード、ライムギなどで繁殖牛の飼育に取り組みたいと思います。肥育部門では、自動給餌機などの機械を導入して、労働力をあまりかけないようにしたいと思っています。そして、エサも肥育牛があきないようなエサの配合を作りあげ給与したいと思っています。

気づけば学生生活も半年を切り、学校で取得できる牛削蹄師や家畜商などの資格も取得したいと思います。そして将来、家の牛を削蹄できるように経験を積みたいと考えています。少なくなってきている学校生活を有意義にすごしていきたいと思います。

この農業実践大学校で、出会った仲間と学んできた時間はかけがえのないものです。卒業後も、良きライバルそして、良き仲間として情報交換をしながら、よりよい物を作っていきたいと思っています。

NAR　地　方　競　馬　全　国　協　会　　岩手競馬（盛岡・水沢開催）10・11月　開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
				盛　岡							盛　岡							盛　岡							盛　岡						
11月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
	水　沢							水　沢							水　沢							水　沢							水　沢		

※開催期間中の重賞レース

・10／12（日）第２回 パンジー賞（盛岡）　・10／13（月）第21回 マイルCh南部杯（盛岡）
・10／26（日）第２回 きんもくせい賞（盛岡）
・11／９（日）第34回 赤松杯（水沢）　　・11／24（月）第31回 北上川大賞典（水沢）

〈New face〉

宮城県畜産試験場

阿部　玲佳

はじめまして、平成20年４月より宮城県畜産試験場酪農肉牛部バイオテクノロジー研究チームに配属となりました阿部玲佳と申します。出身は宮城県名取市で、宮城県農業短期大学畜産科を卒業後、岩手大学農学部の３年次に編入学し、今年の３月に卒業しました。

短期大学では家畜生理学・管理学研究室に、大学では動物管理学研究室に所属し、動物の管理や行動について学びました。卒業論文として短期大学ではシバヤギの行動について、大学ではホルスタイン育成牛の行動について研究しました。畜産について様々なことを勉強するうちに、将来は短期大学や大学で学んだことを活かし、自分が生まれ育った宮城県に貢献できるような仕事につきたいと思い、宮城県職員となりました。

現在は、牛の管理や体外受精等について勉強させていただいており、自分の知識不足を痛感する毎日です。試験場では初めてのことばかりで戸惑うことも多く、周囲に迷惑をかけてばかりですが、諸先輩方の親切で丁寧な指導のおかげで毎日が充実しています。

今はまだ仕事の面でも社会人としても足りない部分ばかりですが、少しでも多くの知識や技術を吸収し、一日も早く一人前になれるよう努力致しますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

〈New face〉

NOSAI宮城県北家畜診療センター

石井　豊希

はじめまして。この４月より宮城県農業共済組合連合会に獣医師職員として採用となりました石井豊希と申します。所属は県北家畜診療センターです。

千葉県の市川市という町で生まれ育ち、東京農工大学に入学して獣医学を学びました。６年間の長い学生生活の中で、獣医師としての自分の将来について考える機会が多々あり、随分悩みましたが、生産現場で農家の方々と接することができるという点に惹かれ、大動物臨床への道を選びました。

現在は先輩獣医師の往診に随行し、診療の基本を研修しております。４月からの研修も早いもので６ヶ月目に入りましたが、周囲の方々に慣れたかと聞かれても、口を濁らせてしまうのが現実です。技術面、知識面だけでなく社会人としても力不足だということを痛感する毎日です。現場での研修の中では、診療内容はもちろん、農家の方々との他愛ない会話に始まり、牛の扱い方や病気、宮城県の言葉や天気、畑作のこと等、学ぶことが沢山あります。また、畜産業界の日々の変化の速さに驚くことがしばしばあり、農家経営の安定化のためには、毎日の変化に迅速に対応できる能力を培う必要性を感じています。

まだまだ微力ではありますが、弛まぬ努力をし、現場の声を形にしていきたいと思っていますので、何卒よろしくお願い致します。